

野木小学校
同窓会報

第 31 号
令和 3 年 3 月
野木小学校同窓会編集部



ご挨拶

第61回卒(昭和45年)
同窓会会長(玉置) 新田 義彦

野木小学校同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また日ごろより当会の活動にご理解、ご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

当会報は昭和六十年度に第一号が発行され、今回第三十一号を発行することとなりました。長きにわたり発行を続けてこれましたのも、ひとえに毎回快く寄稿をお引き受けくださいました会員の皆様方、旧職員の皆様方のおかげであると、深く感謝いたしております。どうか今度ともよろしくお願

い申し上げます。

さて、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、四月には緊急事態宣言が出され、その後解除はされませんが、感染症と闘う不安な日々が続く、各種行事や活動の自粛、縮小が相次ぎました。そんな中、十月四日に「野木地区民総合体育大会・小学生の部」が野木地区体育協会・野木小学校の主催で、地区の皆様方の協力のもと開催されました。久方ぶりに子どもたちが元気に躍動する姿、そして、

他者を思いやり、互いに協力しあう姿を見ることができ、大変うれしく思いました。

野木小学校同窓会会則の第三条に「本会は会員相互の融和と協調をはかり、母校の発展と教育の振興に寄与することを目的とする。」とあります。コロナ禍の今、同窓会として「会員のため」に何をなすべきか、同時に「母校のために」何をなすべきか、を考えながら活動を進めていきたいと思っております。どうか会員の皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様方の益々のご活躍とご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。



野木は心のふるさと

野木小学校校長 赤城 俊彦



学校の広大なグラウンドを囲むように、たくさんのプラタナスや桜樹が植えられています。それらの樹木は腕一抱えほどに成長しており、毎日子ども達を温かく、また力強く見守ってくれています。同窓会の皆様には、日頃から学校運営につきましてご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

野木小学校の歴史を振り返ってみると、明治のはじめには、清月寺、桂雲寺、玉泉寺、盛雲寺が寺子屋として使われ、それぞれ三十人から六十人が学んでおられたようです。明治5年には起新小学校、恵懐小学校が設立され、明治十三年には、起新小学校、恵懐小学校、綏穆(スイボク)小学校へと再編されました。この頃から数えると、野木小学校は百五十余年の歴史を持つこととなります。創設時から地域の学校として、また人と人との交流拠点として重要な位置を占めていたことと思います。同窓会は明治四十三年に尋常科、高等科を卒業された三十八名の方々が第一回の会員になっておられ、今年度は第十二回卒業生二十四名の児童が新会員として入会する予定です。長い歴史の中に脈々と受け継がれている「野木を愛する心」をこれからも引き継いで欲しいと願っています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のために臨時休業を余儀なくされ、授業数が削減されたり、多くの学校行事が中止されたりしました。今まで当然のように

旧職員からの便り

野木地域の皆さんに感謝！

(平成22年度～24年度)

西川 憲子

り切り、達成感でいっぱい
の表情でした。学校の種目
だけでなく、地区の一員と
して各競技に参加する姿を
見て、こうやって、子ども
たちは地域の中で温かく育
ていただいていることも
実感できました。

平成二十四年度の学校の
リフレッシュ工事に伴う校
舎の移転作業、各学年の田
畑作業の協力、登下校の見
守り、親子歯みがき教室など、
いつも保護者や地域の方々
に支えていただきました。

育友会の懇親会も楽しかつ
たです。多くの保護者が参
加してくださり、歌って踊
って盛り上がりました。

現在、私は上中中学校に
勤務しています。小さかつ
た子どもたちが中学生に成
長し、行事や部活動などで
頑張っている姿が見られる
ことに、日々喜びを感じて
います。保護者の方も、「先
生久しぶりでですね。」「うち
の子が入学するまで、中学
校にいてくださいいね。」と、
声をかけてくださり、有難
く思います。

定年退職まであと数年に
なりましたが、もう一度野
木小学校に勤務できること
を願っています。その際は、
どうぞよろしくお願いいた
します。

して行われてきたことが想
像もつかない形態に変更
せざるを得なくなり、その
物の存在価値や意義を問わ
れているように感じます。
しかしながら、長い歴史を
振り返ってみても、学校に
求められている「不易」の
部分は今も昔も変わりませ
ん。ICTの導入など「流行」
の部分も大切にしながら、
児童にとっても、保護者に
とつても、教職員にとつても、
さらに地域にとつても「楽
しい学校づくり」を全職員
が一丸となつてめざして参
ります。

三年間という短い期間で
したが、養護教諭として野
木小学校に勤めさせていた
いただきました。この度、同窓
会誌に寄稿させていただく
ことになり、野木小学校に
在職していた頃を思い返し
てみますと、まず一番に思
い出されるのは、保護者や
地域の方とのつながりです。
パワーあふれる方が多く、
地域の子どもや学校のため
ならと、様々な教育活動や
行事にご協力いただきました。
その中でも、「クラブ活動」
は良い思い出の一つです。

和太鼓に触れる機会はほと
んどなく、児童と一緒に一
から教えていただきました。
敬老会や六年生を送る会で、
クラブの発表をする際は、
法被などの衣装や民謡傘の
準備から当日の着替えまで、
大変お世話になりました。
お忙しい中、発表も見に
来てくださいました。発表
後はすぐに私たちに駆け寄り、
「上手やったで。」と笑顔で
やさしく声をかけていただき、
一気に緊張が解けたことを
覚えています。

本当にありがとうございます
ました。



野木小学校は、地域の方を
ゲストティーチャーに迎え、
クラブの指導をしていただ
いていました。私は、民謡
クラブと和太鼓クラブの担
当でした。今まで、民謡や

また、当時も野木小学校は、
小学校と地区合同の体育大
会でした。地域の方の熱気
と温かい声援によって、子
どもたちはいつも以上に張



旧職員からの便り

宝物の一年

森 郁

しかし、体育大会本番では誰も落ちずに大成功で終えることができました。その時の子どもたちの嬉しそうな表情と達成感にあふれた顔、先生方と自分のことのように喜んだことを今でも思い出します。

今回、教頭先生から野木小学校同窓会報の原稿依頼をいただき、書かせていただくことになりました。野木小学校でお世話になったのはわずか一年でしたが、私にとって大学を卒業して初めて働くこととなった、非常に思い出深い学校です。

野木小学校に勤めることが決まったのは、今から七年前の、大学の卒業式を間近に控えていた三月でした。それまで教育実習でしか子どもたちと関わったことがなく、電話で連絡をいただいた時にはどんな学校なのか、どんな子どもたちがいるのかと、楽しみよりも不安・緊張が日々大きくなっていました。しかし、体育館で初めて会った日、子どもた

ちは大きな声で体育館いっぱいに響く校歌と、素敵な笑顔で迎えてくれました。

担任した四年生の子どもたちは、授業に一生懸命取り組み、行事にも全力投球する、元氣いっぱい学年でした。そして、休み時間になると一緒にたくさん遊んだ思い出があります。サッカーや鬼ごっこ、ドッジボールなど、いろいろな遊びで子どもたちと触れ合うことができ、毎日一緒に遊ぶのが本当に楽しみでした。そんな中でも一番印象に残っているのは体育大会です。四・六年生は毎年一輪車の演技をしますが、練習では一輪車から落ちてしまう子がいて、一回も完璧にできることはありませんでした。

一年間の勤務でしたが、担任していた子どもたちへの卒業式後の謝恩会に呼んでいただくことができました。久しぶりに会うことができ、当時の懐かしい話ができることに嬉しい気持ちと、子どもたちが想像以上に大きく逞しくなっていたことに驚きがありました。今は高校生になってるので、自分の夢に向かって頑張ってほしいと思います。

先生方から教員としてのノウハウを学び、毎日子どもたちと楽しく過ごしたことを思い出すと、懐かしい気持ちがいよみがえってきます。社会人一年目ということもあり、たくさん失敗もありましたが、校長先生をはじめ、先生方や保護者・地域の皆

様に温かく見守っていただいたことにも深く感謝しています。一年間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございます。



6年生調理実習の様子(令和2年12月)

会員からの便り

回想

第62回卒(昭和46年)

田中孝明

私が野木小学校を卒業してはや五十年を迎えます。

還暦を迎えた年には、同級生十三人と伊勢神宮参詣をしました。再会するのが、小学校卒業以来となる友達もいて、楽しいひと時を過ごすことができました。そ



の出会いがよかったこともあり、翌年も伊勢神宮を参詣してきました。途切れていた同級生との再会が還暦をきっかけとして、つながりが復活したことは懐かしい思いと、こんな時代だからこそ、顔を合わせて思いを語る時間が大切ではないかと感じました。

小学校時代を振り返ると、長谷先生との出会いが大きく影響しています。三年から六年まで担任をしていたとき、教師にあこがれを持ったのもこのころです。私たちが小学校から中学校に入学するのと一緒に、同じ学校に異動されました。また、私が高校に入学するとその高校に異動され、九年に渡ってご指導をさせていただき

ました。

小学校時代で一番に思い出されるのは、修学旅行です。私たちが六年生だった一九七〇年に、大阪で世界万国博覧会が開催されたので、修学旅行に組み込まれました。アメリカ館に展示されていた「月の石」を一目見たいと思いましたが、大勢の人で見られなかったのが残念でした。

もう一つの思い出は、ありんこ文集です。ぼろぼろになってしまいましたが、今でも大切に保管しています。授業で作った詩や当時の出来事が書かれていて、小学校当時の落ち着きがなかった私の光景が脳裏に映し出されます。三・四年生の文集では、親子で取り組んだ読書感想文が中心でした。じっくり本を読む習慣がなかった私にとっては、本を読むことがその感想をまとめるのが大の苦手だったのですが、提出するために本当に苦労しました。

今になって思うことは、

いろいろなジャンルの本を読んだり、自分の考えをまとめたり、文章にして表現することが大切であることに気づかされ、先生の思いを少しわかったように思います。

教師になってからは、先生をお手本にして、学級担任のときは子どもたちの作品をまとめた文集づくりをしていました。

昨年度は再任用職員として、野木小学校に勤務することができました。最初で最後の勤務でしたが、野木小学校の児童と一緒に生活できたことは、私の宝となっています。これからは、地域住民の一人として、児童の健やかな成長を見守りたいと思います。



昭和ノスタルジー

第74回卒(昭和58年)

玉置 東 輝 典

今回、原稿の依頼をいただき、自身の小学生時代を振り返りノスタルジーに浸ってみました。人生において小学校の六年間は自身自身が成長するために重要な期間だったのだと改めて感じました。今、私は野木小学校の近くで自動車修理の仕事をしていています。仕事中にグラウンドやプールから在学児童の元気な声が聞こえてくると、我が子ではないものの愛おしく思います。

私が野木小学校に通っていたのは昭和五十二年からの六年間。今から思えば旧き良き時代だったのでないでしようか。授業の内容についてはあまり覚えていませんが、優しい先生方や

の先生やクラスメイトとのやり取りは楽しかった思い出でしかありません。まさに愛情のこもった御指導を頂いたと思っています。

また、春から秋にかけては野球とソフトボール、冬は剣道、卓球、百人一首の練習に打ち込みました。野球とソフトボールは学校単位のチーム編成でしたので全員参加。シーズン中は毎日練習があり、その成果が嶺南大会優勝という結果に結びつきました。後に高校の野球部の仲間が当時決勝で対戦したピッチャーだった事が判明し「野木強かつたですもんね」「お前も球速かつたで。」などと話したことがあり、母校「野木小」を誇りに思った事を覚えています。

在学中に当時珍しかったステンレス製のプールやランチルームができました。良き時代だったに違いありません。新築のランチルームの真っ白な壁に一人一輪の花を描きました。地域の

行事でランチルームを訪れると描いた時の緊張感や絵の具の匂いがよみがえり、つい懐かしさに浸ってしまいます。

社会は猛スピードで変化し、生活も多様化している現代において、この地域が進む道筋は予想できません。しかし、野木小学校で育った

僕は小学校生活の六年間を野木小学校で過ごしました。慣れない制服に身を包んだときの緊張と、これから始まる小学校生活への期待は今でも覚えています。

入学してから同級生と一緒に話し合い、助け合いながら一つ一つの事を悩んだりもしましたが確実にこなし、先生方がいつも厳し

会員からの便り

小学校時代の思い出

第76回卒(昭和60年)

兼田 東山 日出男

子供たちが「ふるさと野木」に少なからず愛着が湧くであろう事は想像できます。ぜひ今の児童にはただただ楽しく、学校生活を送ってほしいと願うばかりです。

そして私たち地域の大人は見守りながら子供達が誇りを持てる様なふるさとを未来を創造したいものです。

く優しく接してくれて、どんなときでも児童に寄り添ってくれました。勉強のこ

とだけでなく生活面でも厳しく指導して頂き、今ではいい思い出となっています。特に思い出に残っているのは少年野球のことです。とても多くのことを学びました。大きな声をだし、ひたすら練習を繰り返す毎日でしたが、



野木小学校入学記念 昭和54年4月1日

先輩方のようになるのだとみんな切磋琢磨し、地区大会や県大会に向けて汗を流したことを今でもはつきり覚えています。無我夢中に一日一日を過ごしているとおつという間に月日は流れ、最後の大会は優勝するんだという気持ちで練習に明け暮れていたことを思い出します。

野木小学校を卒業してか

ら何十回と行っているが、そのたびに小学生の時のような新鮮な気持ちになるのは、学校の様子が変わっていないからだろうか、僕にとって野木小学校は心身ともに今の自分の基盤になるものを作ってくれたところであり、あたたかく受けとめてくれた楽しい思い出の場所だと思います。

在校生の皆さん、これから先たくさんの

ことに挑戦してください。その学びが人生にとっての教訓となり、り経験となり、あなたの心をつくっていくと思いません。是非いろんな夢を叶えてください。僕がとくに伝えたことは、皆さんの仲の良い友達をはじめ、同級生やチームメイトを本当に大切にしてください。

友達が困っているときは手を差し伸べ、喜んでいるときは一緒に喜んでください。自分が同じく困っていると

会員からの便り

『輝き』のその先に

第96回卒(平成17年)

橋本 充生

皆さんの人の支えがあつて私たちは成長しているのだと思います。

最後になりますが、コロナ禍の中でも野木小学校が発展し続けていくことを心から願っています。

最近のマイブームのひとつが、湯船に浸かりながら歌うことだ。その日の気分によつて歌う歌は異なるが、つい先日、小学校から高校までの母校の校歌を歌っていた。傍から見れば、なんとも不思議な光景である。

出てこない。あれ、何が『輝き』の前に入ったっけ…。

小学校の校歌を児童として歌っていたのは何年前だろうか。当然、歌詞がところどころ思い出せない。特に、『心にも』の次の歌詞が

小学生の時を思い出すと、先生方には本当にお世話になった。一年生の時は出口先生。劇では大事な役に抜擢して下さった。二年生から四年生まで担任をもつて下さった桑原先生は、いつも笑顔で私たちに接してください、(時にはきつく叱られたが)学校が毎日楽しかった。先生との思い出

最も印象に残っているものは、「梅干しパーティー」というイベントである。そのイベントは、様々な梅料理をつくって食べるというものであつたが、私は不安だつた。なぜなら、私は超がつくほどの梅干し嫌いだからだ。それまで一粒も食べなかったことがなかつた。しかし、私たち自身が漬けた梅干し、それは違つた。梅干しのあまりの美味しさと、一粒食べきれない感動は、今でも忘れられない思い出だ。それ以来私の好物に…、と言えれば格好よかったのだが、



現実はその甘くなかった。五年生は福尾先生。少年自然の家でのキャンプファイヤーで歌ってくださった奇妙な歌は、今でも耳に残っている。六年生の時は森北先生。優しく私たちを見守ってくださり、お父さんの存在でした。

他にも、友人と話しながら歩いた通学路。春には虫や蛙を探しまわった。冬には除雪車がつくった大きな雪山で遊び尽くした。そんな調子で、歩くだけなら四十分くらいの道のりを、三時間以上かけて帰ったこともあった。そんな日は帰るともれなく祖父母のカミナリが落ちたものだ。

こうして思い出を振り返ってみると、そこにはいつも優しさや温かさがあった。友人たちや先生方、地域の人々に支えられ、見守られて今の私があると思う。

高校までを過ごした故郷を離れて十年が経とうとしている。たまに実家に帰ると、そこには昔も今も変わらず

のどかな田園風景が広がる。新型コロナウイルスの影響で始まった自粛生活などの「非日常」が、「日常」になりつつある

今日。私も含め、社会は大きな変化を強いられている。それでも、笑顔を絶やさずに生活したいと思う。故郷が私をそう育ててくれたように。

落ち着いたら実家に顔を出そう。友人たちとも久しぶりに連絡を取ってみよう。あ、校歌の歌詞も、もう一度覚えてみよう。



新成人からの便り

感謝の心を持って

第104回卒(平成25年)

中野木 東 舞 裕

私が小学生だったころを

振り返ると、毎日勉強に運動に遊びに全力で取り組み、楽しく充実した日々を送っていたように思います。中でも運動会や音楽会、陸上記録会といったイベント行事は練習を頑張っていた分、本番を成功させたときの思い出や気持ちはとても強く覚えていきます。特に私が六年生になったときの運動会では、応援合戦の構成を考えた

り、一々五年生をまとめなければならぬという最高学年としての責任と難しさを感じました。時には意見が衝突することもありました

が、そういった経験があったからこそ本番を終えた後の達成感や嬉しさは大きく、自分自身の成長に

も繋がりました。またクラスメイトも十三人ととても少ないですが、六年間この仲間で辛いことも楽しかったことも乗り越えてきました。

現在は就職して社会人になった人もいれば、県外の大学に通っている人もいて、みんな別々の場所で頑張っています

が、六年間という長いようで短い小学生時代をこの十三人で過ごせたことは私の誇りです。

私は現在県外の大学に通っており、地元から離れて一人暮らしをしています

が、地元に帰るたびに地元の温かさを感じます。また小学生の弟の下校を迎えに行った時に、当時は私が弟の立場で「ただいま」を言う側

でしたが、今は「おかえり」という側になったことがとても感慨深く思いました。

そして「おかえり」を言う立場になったことで、当時の私たちが楽しい学校生活を過ごさせていた背景には両親をはじめとした家族や先生方、地域の方々といった

たくさんの方々の支えがあったからなのだというのを改めて感じました。

また現在は新型コロナウイルスによる影響で厳しい世の中となつていますが、だからこそ人との関わりや繋がりをより一層大切にしなければならぬと感じています。野木の里の皆さんが私たちを支えてくださったことを忘れずに、これからも感謝の心を持って生活していきたいと思っています。



児童作文

一年生

みまもつてくれて ありがとう

はやしのあ

まいにちいえへかえるとき、みまもりたいのひとが、いつしよにかえつてくれます。いつもありがとう。ときどきおはなしをするのがたのしいです。

ひとりでかえるところわいけど、いつしよにかえるとあんしんしてかえれます。「おうちのひといる？」としんばいしてくれたり、「なようなら」とあいさつしてくれたりすると、げんきになります。

これからみまもつていくな。

よみきかせ、たのしいよ

しまおかあすか

すいようびのあき、よみきかせボランティアのかたがよみきかせをしてくれます。たのしくておもしろいほんをよんでくれてうれしです。わたしは、よみきかせは、「へい」とうらのおきやくさま」です。サンタさんがケーキをつくってくれて、ぐりとぐらがよみきかせがよみきかせです。ほんをよんでもらうと、たのしいきもちになるよ。まいしゅうよみきかせにきてくれてありがた。



おうえんしてくれて ありがとう

ないとうりようた

にちようびに、たいいくたいかいがありました。六十メートルそうやせんいんりレーをがんばってはいたり、ダンスをおどったりしてたのしかったです。

おとうさんとおやこきょうぎをしました。くじをひくのがドキドキしました。いつしよにできてうれしかったですよ。

六ねんせいと大だまころがしをしました。いつしよにおしてくれてありがとう。はじまっているとき、「がんばれ」とおうえんしてくれてありがとう。六ねんせいのダンスやいちりんしゃがカッコよかったよ。とくにさいごのポーズがカッコよかったよ。

二年生

みんなでがんばった体いく大会

きぬ川 かいと

十月四日、金曜日までひっしでがんばってれんしゅうしてきたせいが出たからよかったです。

ダンスのれんしゅうのときは、しっぱいしていただけ、「まちがえてもだいじょうぶ。」と思つてやったらうまくできたからよかったです。

六十メートルそうでは、まけてしまったけど、力いっぱいはしたからよかったです。つぎのときは、三年生なので百メートルです。一いめざしてがんばりたいと思いました。なんいでもがんばりたいです。

今年がたコロナウイルスで、ちいきの方がたのきょうぎはなかったけど、ちいきの方がたのおかげで体いく大会ができました。ありがとうごさいました。これからも、よろしくおねがいします。

の木ちくの公みんかん

すきたにこわく

十月二十三日、三・四時間目に、公みんかんに見学をに行きました。ぼくは、とても楽しみにしていました。はじめに、二かいの大きなわしつに入って、しつもんをしました。ぼくは、

「いろいろなへやは、どんなときにつかいますか。」というしつもんをしたら、体そう教室や、おどりや、絵の教室をするところだと分かりました。広いから、大ぜいの人でいろんなことができるんだなと思いました。

つきに、かん長さんにあんないしてもらつて、へやを回りました。一かいのわしつより二かいのわしつの方が、大きかったです。たには、たかさんの人がすわれるように、いっぱいざぶとんがつまっています。

さいごに、みんなでわりのあいさつをしました。わりのあいさつがおわったら、みんなできねんしやしんとつて、いい思い出になったなと思いました。それは、みんなでしやしんとつて、楽しくなったからです。これからは、公みんかんを大切にしたいし、もっとおうちのひとと公みんかんをりようしたいです。山形かん長さんと小西さんは、とても親切に教えてくれたので、とても

三年生

楽しかったよ

「ふくい県立れきしはく物館」

塚本 もも

うれしかったです。

三年生になって、はじめての遠足がありました。遠いところまで行くので、わたしは遠足の日がとても待ち遠しかったです。ふくい県立れきしはく物館は見た事がないものがいっぱいあってびっくりしました。とくに心にのこっているのは「クイズ大会」です。昔の道具や物が一面においてあっておもしろかったです。どれもわたしが見た事のないものや見ただけではわからない物でした。クイズ大会では、小さなランドセルなどがあつておもしろかったです。「上の学年はせおえるのだろうか。ぎりぎりせおえるかな。」と思いました。その後に、昔の教科書やノートも見せてもらいました。わたしは、ランドセルが小さいのは、教科書やノートが小さいからだと思いました。そのほかには、「ひのし」という昔の道具がありました。はく物館の方が、いろいろな道具のせつ明をしてくれてよく分かりました。昔のきゅう食の食事も見せてもらいました。わたしたちの食事はプラスチックだけ、昔のものは全部アルミでできていました。こんだてに、おしるけいのもがないことを知ってびっくりしました。わたしは、ふくい県立れきしはく物館を見学して、昔のさまざま

なくふうやひみつを知りました。一回、昔へ行ってみたいと思いました。そうしたら、実物をもっと見ることが出来るからです。見学で学んだことを大切な思い出にしたいと思います。

「がんばる」「一りん車」

清水 あおい

三年生になって、一りん車の練習が始まりました。一りん車はバランスがとりにくくて心配だったけれど、「上手にバランスがとれると気持ちいいんだなあ」と気づきました。わたしはわくわくして、練習するのが待ち遠しくなりました。どうしてかという、上手に乗って、遠くまで行きたいからです。そして、みんなを手をつないで一りん車に乗ってみたいのです。練習で、とくに心にのこっているのが、鉄ぼうを持って少し乗れたことです。すごくがんばって、鉄ぼうから手をはなしたら少し乗れました。次、次とやっていると、少しずつ乗れるようになっていきました。でもいつもうまくいくわけではなくて、すごく乗れる日や、あまり乗れない日があります。鉄ぼうから手をはなすのはこわいけれど、もつと乗るには手をはなすしかありません。だから思い切って手をはなすようにしています。乗れることでも気持ちいいし、すごくうれいのです。乗れない日は、くやしいです。まだ少ししか乗れないので、こつこつと休み時間をみつけて乗れるように練習します。四年生になった時は、遠くに行けるようになりたいです。それから、手はなしもできるようになりたいです。一回もしつばいせず

にのれるように、これからがんばって練習をしたいです。

四年生

つつみのいいところ

平田 美空

つつみのいいところは、いろいろな行事に全力で笑顔なところです。わたしはそんなつつみが大好きです。祭のときも小学生がおどりをしているときに、たくさんの方が「がんばれ」と言ってくれて、元気が出ます。わたしがしつばいしたときには、「ドンマイ」と言ってくれます。ぎおんさんの練習のときはいつもお家の人が来てくれます。いそがしいときでもわたしたちをゆうせんしてくれれます。お家の人がいそがしそうだから「練習に来なくてもいいよ」と言っても練習に来てくれます。やっぱりわたしたちが大事で来てくれるんだなと思うとうれしいです。祭では、いつもわたしたちが好きなものを地いきの人が用意してくれます。そのおかげで、楽しく祭に参加しています。地域でつつみの人に会ったときもわたし「おはよう」と言うと、笑顔で「おはよう」と返してくれます。また、きよ年の体育大会でつつみが二位だったときに、わたしががっかりしているとき、つつみの人たちが、「次もある」と言ってくれました。たつきゅうの練習をするときにも、「がんばれ」と言ってくれるから、いつもわたしたちは、つつみのおかげであきらめずにやっています。そんな

つつみの人にかんじやていっばいです。これからも地いきでできることを協力してがんばっていききたいと思います。

わたしのしょう来の夢

塚本 心優

わたしのしょう来の夢は、パティシエになることです。なぜ、その夢になったかと言うと、わたしは、スィーツやおかしを作るのが好きだからです。ケーキ屋さんのケーキは、とてもおいしいです。なぜ、こんなにおいしいのかは気になっていました。また、わたしはおいしいケーキでいつも笑顔をもらっています。だから、パティシエになっておいしいケーキを作って、みんなに笑顔を届けたいです。パティシエの人は、たくさんくろうして、あんなにおいしいケーキが作れるようになるんだと思います。わたしもあきらめずにおいしいケーキを作りたいです。あまり売れなくても、一から作り直して売れるようにがんばりたいです。パティシエは、自分が思っている何倍も大変だと思っています。でも、たくさんくろうしたら、あんなおいしいケーキが作れると思っています。パティシエになって、新しく知ることなどもしょう来きつとあると思うので、パティシエになろうと思います。そして、たくさんの人に笑顔を届けたいです。そのためにくろうして作ったケーキをたくさんの人に食べてもらいたいです。きつと今ケーキ屋さんで働いている人たちもそんな気持ちで働いているんだろっと思えます。わたしがパティシエになってから

の夢もあります。わたしが作ったケーキが、全国で人気になり、みんなに笑顔で食べてほしいという夢です。わたしのしょう来の夢がかなうとうれしいです。

五年生

去年と全く違ったお米作り

五年 大江 咲良

「コナウイルスのおかげでちよつとラッキー。」
そう思ったのは初めてでした。なぜかという、米作りが去年と今年では大きく変わったからです。去年わたしたちが稲刈りをするときは、手で刈りました。でも今年、コナウイルスの影響で、機械で刈ることになり、去年と今年で、手で刈ると、機械で刈るとを比べることができたからです。
手で刈った時は、野木っ子農園の広さだけなのに、みんなと老人会の人々と四十人くらいいたのに、二時間くらいかかりました。でも、機械で刈るとあつという間に終わってびっくりしました。
今年稲刈りの後、たごころ農園に見学に行く予定だったけれど、雨で稲刈りが延期になってしまい、見学が先になりました。見学では、たくさんさんの機械を見ました。たごころ農園にある機械は、どれも人間のよゆうな能力を持っているかのようでした。わたしが一番すごいと思ったのは、空気でつぼつで、色の悪い米を打つ機械です。機械が自分で判断できる

なんて、すごいと思いました。

今回の稲刈りやたごころ農園の見学で、コンバインを操縦している人やたごころ農園で働いている人がとてもかっこよかったです。農業という仕事がとても楽しそうに思えてきました。コクナウイルスの影響で、手で刈ることはできなかつたけど、お米作りでの人と機械の違いを知ることができてよかったです。

でも、やっぱり野木っ子農園のお米は、手で植えて、手で刈って、地域の人と交流するのが楽しいです。来年、わたしたちは六年生になるのでお米作りはできないけど、今の三・四年生には自分の手で植えて、刈つての米作りもしてほしいです。機械での農業も勉強になるので来年も取り組んでほしいし、地域の人の交流も楽しかったので、自分の手で植えたり刈ったりすることにも取り組んでほしいです。

あつてよかつた自然教室

五年 橋本真乃介

八月二十六・二十七日に自然教室がありました。今年はコクナウイルスの影響であるのかどうか不安だったけれどあつてよかつたです。自然教室では初めての体験をたくさんしました。

最初にみさきちに行つて、SUP体験をしました。ぼくはSUP体験でこぎ方やボードの乗る場所が初めは難しかったけれど、後からは楽しくできました。乗った時ゆらゆらで怖くて立てなかつたけれど、バランスをつかんだらすぐに立つことができました。

その後、三方青年の家に行つて、野外炊さんをしました。野外炊さんでは、僕は火おこしの担当でした。

火おこしでは目が熱くなつて大変だったけど火が燃えてきたのでよかったです。火をおこすとき、一回目は火をつける工夫をしたけど燃えませんでした。二回目は、消えたと思つたけど、火が燃え上がったのでうれしかったです。でも目が熱かつたです。三方青年の家は、お風呂は広くて寝る部屋もきれいだつたし、景色もきれいだつたのでうれしかったです。

二日目は、最初に年縞博物館に行きました。入口に入った時、拍手で迎えられてびっくりしました。なんと十万人突破の入場だつたのでうれしかったです。いろんな記念品ももらいました。四十五メートルの年縞はとて長かつたです。七万年もの年縞だつたのびっくりしました。

自然教室でいろんなことをして、難しかったり、うまくいかなかつたりしたことあつたけれど、みんなと泊まつて、いろんな経験ができたのでうれしかったです。来年の修学旅行が今から楽しみにになりました。



六年生 独楽吟

- たのしみは 朝日がのほり 小鳥 鳴く まどに朝日が そそぎこむ時 東 亮兵
- たのしみは 家族みんなで ごはんつくり 食べて話して わいわいする時 今岡 美月
- たのしみは ゲームで遊ぶ 友とほく おしゃべりしながら 笑い合う時 小谷 啓人
- たのしみは ほろかご二人で ゲームして レアアイテムを ゲットするとき 倉谷 悠生
- たのしみは フォートナイトの アリーナで たくさんたおして ヒクロイするとき 坂本 朔
- たのしみは テトラポットで 友達と 勝負しながら 魚釣る時 清水 健翔
- たのしみは ポチといっしょに 公園で おさんぽをして かけまわる時 清水 憂乃
- たのしみは 家族といっしょに だらんし おかしい話で 笑い合う時 鈴木 杏
- たのしみは 空晴れし日の 猛暑日に 打って守つて 試合勝つとき 勢馬 彰梧
- たのしみは クーラーつけて ひるねして 一人たのしく 夢見るとき 高本 周吾
- たのしみは かそくみんなど 花火して とてもきれいと みつめているとき 竹村 妃那
- たのしみは 年に二回の 盆正月 親せきみんなど あつまるとき 塚本 悠心
- たのしみは みんなで鬼ご タッチして みんな走つて あせをかくとき 塚本 柚子
- たのしみは 算数おわつて 次なんだ 体育らしい ウエイイな時 辻本 妃那
- たのしみは 買った小説 読み終わり 最後の部分 読み返す時 寺坂 茉夏
- たのしみは 全てをわすれ 集中し自分の部屋で しようきするとき 富崎 凜斗
- たのしみは 家に帰つて こいを見て 色とりどりの 色を見るとき 内藤 咲希
- たのしみは あさひるばん 手作りごはん いっぱいたべて 幸せになる時 内藤 彪我
- たのしみは 夏の名物 線香花火 家族みんなど 勝負する時 橋本 創士
- たのしみは 帰つて食べる つめたくて あまいアイスが かくべつの時 東山 未空
- たのしみは みんなで海で すいかわり はしやぎながら たのしむとき 平田 優美花
- たのしみは 卓球台の 前へ立ちラケット持つて スマッシュ打つ時 福田 真治郎
- たのしみは 週に一度の木曜日 ラケット持つて 卓球するとき 福田 真莉夏
- たのしみは 宿題おえて 友を呼び 外で遊んで 笑い合う時 盛山 若愛

今年度の野木小学校の活動

写 生



交通安全教室



入 学 式



自 然 教 室



プ ール 学 習



プ ール 掃 除



秋季遠足(1・2年生)



体 育 大 会



稲 刈 り



栃木県野木町立野木小学校との交流(5年)



栃木県野木町立野木小学校との交流(全校)



秋季遠足(3・4・5年生)



★★★★ 6年生 思い出のシーン ★★★★★



修学旅行（芝政ワールドにて撮影）



落語体験



ALTと一緒に

編集後記

同窓会員の皆様、いかがお過
 ごでしょうか。大変お待たせ
 いたしました。今年度の母校
 の様子や同窓会員の近況をお知
 らせする同窓会報三十一号が出
 来上がりましたので、お届けい
 たします。

今年度は、新型コロナウイルス
 の影響で、政府により緊急事
 態宣言が出されるなど、生活の
 中で制限されることが多くあっ
 た年でありました。そのような
 状況の中、今年も原稿執筆をお
 願いました皆様方には、お忙しい
 中にもかかわらず、快くお引き
 受けいただきました。ありがとうございます。
 大変内容のある会報に仕上がり、
 心から感謝申し上げます。

末筆ながら、会員の皆様の益々
 のご健康とご繁栄をお祈り申し
 上げます。

福井県三方上中郡若狭町武生十五一七一

野木小学校同窓会事務局